2019年度 プロジェクトレポート！

地域やボランティアの皆さまが、一丸となった全国のプロジェクト。そのレポートと感謝の声が届きました。

- ■宮城 海を守るために木を植える 森は海の恋人
- ■千葉 九十九里浜の海岸林を震災前の姿へ戻そう
- ■神奈川 竹林を伐採して鎌倉の森を取り戻そう
- ■長野・宮城 C.W.ニコル・アファンの森と東松島の森づくり
- ■兵庫 人と動物が共生する「安賀彩りの森」
- ■宮城 海岸林再生10か年計画
- ■東京 八王子の里山を明るい森に変えていこう
- ■静岡 世界遺産 富士山の森を守り再生させよう
- ■和歌山 生物多様性を体感できる森づくり
- ■徳島 地域住民で守る神山の里山保全

宮城 海を守るために木を植える 森は海の恋人

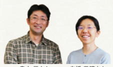
支援金額
3,262,696円
植樹祭の参加者
1,400名
皆さまのお陰で落葉広葉樹の森が広がり続け、三陸の海を育んでいます。ありがとうございます！

毎年恒例の植樹祭を開催したほか、SNSでの情報発信にも力を入れました。

気仙沼湾のカキの養殖など、海の恵みには河川や森といった流域全体の自然が欠かせません。その大切さを伝えるために、恒例の「植樹祭」を6月2日に開催。1, 400名の参加者が森に苗木を植え、豊かな水源づくりのお手伝いをしました。さらに自然の観察会「森へ入ろう」も新たにスタート。SNSを通じて積極的に活動情報の発信をしていくなど、環境保全の啓発にも力を入れた1年でした。

「みんなの参観日」実施プロジェクト（詳細はP7へ）▶

畠山 重篤さん　三浦 幹夫さん


畠山 信さん　白幡 美晴さん

特定非営利活動法人 森は海の恋人

宮城 海岸林再生10か年計画

支援金額
4,000,000円
植栽
20,000m²
植栽した累計35万本のクロマツは順調に成長し、大きいものは4.5mになりました。

クロマツの海岸林を、未来に受け継ぐために。啓発活動も実施し、地元に根付いた活動へ。

東日本大震災の津波によって、クロマツによる多くの海岸林が失われてしまいました。この自然の防波堤を取り戻すプロジェクトに、昨年度はのべ1,878名のボランティアが参加。育苗場で3万5,000本の苗木を育てながら、海岸20,000㎡にわたる広大な面積の植栽に取り組みました。また、地元の高校でボランティア説明会を実施したほか、名取駅の自由通路で写真展を開催するなど、さらに地元に根付いた活動をめざしています。

写真左より、林 久美子さん、鈴木 和代さん、浅野 奈々穂さん、吉田 俊通さん

公益財団法人 オイスカ

千葉 九十九里浜の海岸林を震災前の姿へ戻そう

支援金額
2,996,463円
下草刈り
6,000m²
3.11の津波で失われた九十九里浜の海岸林再生プロジェクトです。4年間ご支援をいただき、約10,000本の海岸防災林を復活させることができました。

植林から下草刈りまで取り組む活動に、毎年参加してくれるボランティアが増加中。

東日本大震災の爪痕が、ここ千葉県にも残っていることはあまり知られていません。津波の浸水による塩害で、多くの木々が枯れてしまったのです。しかし多くのボランティアにご協力いただき、これまでに約60,000本の苗木を植えることができました。昨年度は植林に加えて、7月と8月に下草刈りを実施。汗びっしょりになった参加者からは、「海岸林の大切さが理解できた」などの声をいただきました。

ボランティアリーダーの皆さま

特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所

東京 八王子の里山を明るい森に変えていこう

支援金額
1,913,084円
整備面積
15,000m²
里山を明るい環境へと復元させています。エコカード会員の皆さん、ぜひご一緒にどうぞ。

増えすぎた木々を伐採。間伐材は、散策路の補修などに再生されました。

東京の西部には、たくさんの里山が残されていますが、定期的に伐採や間伐をしないと日光が地面に届かず、生物多様性が損なわれてしまいます。そこで、ボランティアの皆さまとともに増えすぎた木々を伐採し、この間伐材を有効活用。水路の補強材のほか、台風で被害を受けた散策路の補修材などに生まれ変わりました。今後はウッドチップにして散策路の整備などに活用し、人の往来で賑わう里山づくりに役立てていきます。

濱野 由香理さん　竹垣 英信さん　清水 隆行さん

特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所

徳島 地域住民で守る神山の里山保全

支援金額
2,500,000円
間伐材の活用
53本
間伐材を使った巣箱づくりや森のサウナ体験、馬耕馬搬や山師についてのワークショップには合計70名が参加されました。

フィンランド式サウナがついに完成。間伐材を薪として活用します。

長年、放置された森林は、地滑りや倒木が発生しやすくなります。町の約85％を森林が占める神山町では、このようなリスクを減らすと同時に、里山をさらに活用しようとする取り組みが実施されました。まずは、伐採適齢期を迎えた木々を切ることからはじまります。そして9月には、フィンランド式サウナをつくり、里山の間伐材を薪として活用。このユニークな取り組みを見学するため、500名以上の方が訪れました。また、大学の講義でも取り上げられるなど注目を集めています。

大門 康介さん　ヴァレリー・テレさん　齊藤 郁子さん

特定非営利活動法人 グリーンバレー

静岡 世界遺産 富士山の森を守り再生させよう

支援金額
3,121,725円
森林の整備
17,000m²
美しい富士山を子どもたちに残していく活動を続けていきます。ご支援ありがとうございます！

森林生態系の崩壊を防ぐために、ボランティアの皆さまと2つの森を整備。

人と森の関係性が変化するなど、様々な理由による森林生態系の崩壊は、富士山の麓でも見られます。昨年度も2つの森で、エコカード基金の支援プロジェクトを実施しました。北山工業団地の森では、健全な森林環境をつくるための下草刈りに加え、養蜂やキノコ栽培のワークショップを開催。西臼塚協定林では、若い木々を野生のシカから守るための防鹿柵を100ヵ所に設置するなど、富士山の森を整備しています。

「みんなの参観日」実施プロジェクト（詳細はP7へ）▶

井戸 直樹さん　豊岡 均さん

認定特定非営利活動法人 富士山クラブ

長野・宮城 C.W.ニコル・アファンの森と東松島の森づくり

支援金額
2,778,964円
森林の整備
110,000m²
おかげさまで多様性豊かな森が維持できています。ご支援ありがとうございます。

豊かな森を育むことは、自然を大切にする心を育むこと。

長野県黒姫にあるアファンの森では、放置されてきた森の、本来の姿を取り戻す活動を続けています。春は、雪の重さによって倒壊した木々の処理からはじまります。夏以降は、下草刈りや枝打ちなどを継続的に実施。地道な活動の結果、今では58種の絶滅危惧種が確認されるまでになりました。一方、宮城県東松島の森では「森の観察会」を開催。子どもたちを中心に81名が参加してくれました。

長年、エコカード基金を通じた活動にご尽力いただいたC.W.ニコルさんが、2020年4月3日にご逝去されました。生前のご厚誼に深謝し、謹んでお知らせ申し上げます。

後列左より、川村 まり子さん、石井 敦司さん、伊知地 亮さん、C.W.ニコルさん、野口 理佐子さん
前列左より、福地 健太郎さん、森田 いづみさん、大澤 渉さん

一般財団法人 C.W.ニコル・アファンの森財団

和歌山 生物多様性を体感できる森づくり

支援金額
1,251,300円
未来遺産運動 参加者
112名
おかげさまで、子どもたちの自然観察活動・未来遺産運動を継続できました。ありがとうございました。

大自然と遊ぶ楽しみを知った子どもたちが、環境保全への興味を抱きはじめています。

和歌山県の孟子（もうこ）不動谷にある30,000㎡のエリアには、現在もニホンアカガエルやセトウチサンショウウオなどが生息しています。子どもたちに自然の大切さを知ってもらい、未来に遺していくこのプロジェクトでは、ビオトープ周辺部での草刈りなどを実施。その甲斐もあり、生態調査では40種類のトンボが確認できています。また、自然のなかで遊ぶ楽しさを伝える活動には、112名の子どもたちが参加してくれました。

北原 敏秀さん　有本 智さん

特定非営利活動法人 自然回復を試みる会・ビオトープ孟子

神奈川 竹林を間伐して鎌倉の森を取り戻そう

支援金額
1,519,912円
参加者数
のべ887名
ご支援ありがとうございます。森の再生はとても息の長い活動、森のあるべき姿を願い今年も頑張ります。

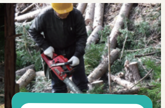
古来より受け継がれる、鎌倉の森を守りたい。その思いが、若い世代に広がりはじめています。

風光明媚な鎌倉で、増えすぎた竹林から照葉樹林を守るプロジェクトには、多くの若者が参加してくれています。長雨や猛暑の影響を受けながらも、竹林の伐採や間伐作業では年間339名の方が汗を流してくれました。さらにドングリの苗づくりからはじめた植樹活動には141名、幼稚園などで開催した「森の教室」には407名が集まってくれるなど、盛り上がりをみせています。

写真左より、矢野 義和さん、田辺 知美さん、長谷川 孝一さん、朱宮 丈晴さん、齊藤 玲子さんと参加された皆さま

一般社団法人 地球の楽校

兵庫 人と動物が共生する「安賀彩りの森」



支援金額
2,500,000円
間伐材の活用
200本
里山の資源循環から持続可能な地域社会へ。彩りの森を未来の子どもたちへ繋いでいきます。

もっと身近な里山をめざして、紫陽花などの花木を植えています。

里山は、人と動物の境界線になることをご存じでしょうか。人が適度に手入れした里山という緩衝地帯をつくることが、集落への鳥獣被害を防ぐことにつながります。そのためにボランティアの協力のもと、間伐や下草刈りを地道に進めました。間伐材はウッドチップにして肥料などとして活用しています。さらに、この里山を身近に感じてもらうため、紫陽花や牡丹を植える植樹祭も開催。100本の花木がしっかりと根を張りました。

春名 千代さんとスタッフの皆さま

特定非営利活動法人 奥播磨夢倶楽部

海外で！

皆さまのご支援により、海外でもエコが広がっています。

- ソロモン諸島 熱帯雨林保全
- パプアニューギニア 熱帯雨林保全
- キリバス共和国 南太平洋諸国支援
- ツバル 南太平洋諸国支援
- ネパール 野口健 ヒマラヤに森をつくろう
- フィリピン 異常気象に負けない森づくり
- タイ 東洋ミツバチと一緒に森をつくる

ソロモン諸島 熱帯雨林保全

支援金額
7,920,000円
試験農場の開墾
200m²
環境と開発を学び今年も約100名の卒業生が巣立ちました。暖かいご支援いただき感謝申し上げます。

職業訓練校では、カカオ豆の栽培を開始。環境と暮らしを守るための新たなチャレンジです。

環境に負荷をかけずに、豊かな暮らしを手にすること。ここソロモン諸島の支援プロジェクトでは、二律背反の課題を解決することが求められています。昨年度、187名が入校し、ますます活気づいた職業訓練校では、新しい取り組みとしてカカオ豆の試験農場を開墾しました。今後は、カカオ豆の生産から加工、さらには販売までのビジネスモデルを確立し、現地の新たな産業に育てていきます。

TOPICS　高カカオチョコレート商品化の取り組み（詳細はP8へ）▶

パーマカルチャーセンター2019年度卒業生の皆さま

特定非営利活動法人 エーピーエスディ（APSD）

パプアニューギニア 熱帯雨林保全

支援金額
6,116,800円
女性の研修参加者
28名
多様な動植物が生きている熱帯原生林を、必死に守る農民の生活向上支援。よろしくお願いいたします

暮らしを変えることで、環境破壊にブレーキをかける。女性の力も、その原動力になっています。

現地の人たちに、焼畑など環境負荷のかかる農法から脱却してもらうために必要なこと。それは、食糧の自給に加え、安定した収入源を提供することです。エコカード基金による支援でも、様々なトライをしましたが、女性への職業支援もそのひとつ。昨年度は、縫製教室や石鹸づくり研修、さらにはピーナッツバターの加工研修などを実施しました。熱心な参加者が多いため、非常に実りのある取り組みになっています。

荏原 美知勝さん

公益財団法人 オイスカ

キリバス共和国 南太平洋諸国支援

支援金額
1,946,008円
マングローブの植林
3,680本
海岸浸食を抑制するため、子どもや住民と植えたマングローブ。たくましく成長しています。

現地の子どもたち、日本の大学生、たくさんの人たちが力を合わせた植林活動です。

マングローブを植林し、海水の脅威から暮らしを守るプロジェクトです。昨年度は、空港と市街地を結ぶ道路を、海岸の浸食から守るため、植林を実施。現地の子どもたちや日本の大学生、さらには環境省職員の皆さまとともに、赤道直下の暑さに負けず植えることができました。しかし、2020年に入ってからは、新型コロナウイルスの影響により活動が中止となり、残念ながら目標数には届きませんでした。

毛塚 みおさん　玉城 エリ子さん　大城 のぞみさん

特定非営利活動法人 国際マングローブ生態系協会

ツバル 南太平洋諸国支援

支援金額
2,493,629円
マングローブの植林
11,246本
青年グループを中心に活動が広がりました。皆さまからのご支援はツバルの未来をつくっています。

小さな島には、マングローブとともに、この活動が力強く根付きました。

ツバルでの植林活動は、現地の皆さまが積極的に参加してくださることもあり、昨年度も順調な成果をあげることができました。現地の方だけでマングローブの種を集め、苗木を育て、植林するという一連の作業を進められるようになったことは、ひとつの成果といえます。また、10月に開催したワークショップにはツバルの首相が同席してくださるなど、現地での注目と期待がますます高まっています。

写真左より、ペペトゥワ・ラタシさん、スーザン・トゥプランガさん、河尻 京子さん、イオシア・ファカヴァエさん、ファフェタイ・ナモトさん、ファトゥプ・シメティさん

特定非営利活動法人 ツバルオーバービュー

ネパール 野口健 ヒマラヤに森をつくろう

支援金額
5,305,950円
植林
12,000本
標高3,400mの地で、無事に苗木が育っています。皆さまのご協力で、ヒマラヤの森がよみがえります。

100,000本の植林という目標へ向けて、現地スタッフの技術が高まってきました。

昨年度の活動は、放牧しているヤク（ウシ科の動物）の食害から木々を守るため、フェンスをつくることからはじまりました。その後、モミやマツなど12,000本の苗木を植えることに成功。フェンスの効果もあり、順調に育っています。また、代表の野口健さんが現地を訪れた際には、この活動の啓発にも力を入れました。その結果、今では現地の皆さまだけでも、円滑な運営ができるようになっています。

写真左より、パサン・ダワ・シェルパさん、ビルーバートルさん、野口 健さん、アン・タルケ・シェルパさん

特定非営利活動法人 ピークエイド

フィリピン 異常気象に負けない森づくり

支援金額
6,138,954円
ワークショップの参加者
447名
生物多様性に富んだ強い森ができつつあります。一方で、山火事等も多く命を懸けた戦いも続いています。

地元の若者に環境意識を届けること。それが、生物多様性が豊かな森への第一歩。

ここフィリピンのルソン島では、森林の減少により土砂災害の危険が高まるとともに、生物多様性が失われつつあります。この課題の長期的な解決に向け、現地の気候に順応する在来種や果実の苗木を植える活動に加え、環境教育にも力を入れました。生物多様性豊かな森を取り戻すためのワークショップには、現地の学生を中心に447名が参加。森を守る大切さを発信する場として、重要な役割を果たしています。

マリオ・ロペスさんと地元の皆さま

公益財団法人 オイスカ

タイ 東洋ミツバチと一緒に森をつくる

支援金額
2,500,000円
養蜂研修参加者
85名
養蜂箱60箱の製作、養蜂箱設置小屋1棟の建設、苗木130本の移植を実施。御助成賜り感謝申し上げます。

受粉活動を通じて、花木の種子づくりをすること。「植えない植林」が、本格的にはじまりました。

急速に失われつつある、タイ北西部の熱帯雨林を守るために、エコカード基金が支援していること。それは、「植えない植林」と呼ばれる取り組みです。これは東洋ミツバチの受粉活動を、花木の種子育成に役立てるというもの。昨年度は、現地の皆さまに研修を行い、60個の養蜂箱を製作するとともに、新たに建てた小屋に設置しました。これは村が一丸となり森林を保全しながら農業を進める、アグロフォレストリーの実現に向けた大きな第一歩になります。

夏季現地研修プログラムへ参加した、日本の青年・タイの大学生・現地メーモン村の皆さま

特定非営利活動法人 草の根国際協力研修プログラム（GONGOVA）

「コスモ石油エコカード基金の活動」についてはホームページでより詳しい内容を公開しています！ぜひご覧ください。詳しくはこちら！

コスモ石油 活動紹介　検索

https://ceh.cosmo-oil.co.jp/kankyo/eco/activity.html

cosmo EARTH CONSCIOUS ACT

コスモ アースコンシャス アクト

クリーン・キャンペーン in Mt.FUJI

2019年度に行われたクリーン・キャンペーンを紹介します！

コスモエネルギーホールディングスは、TOKYO FMおよびJFN加盟局とパートナーシップを組んで「cosmo EARTH CONSCIOUS ACT」を展開。その活動のひとつが富士山で開催され、アルピニストの野口健さんも参加してくれました。1日目はあいにくの天候のなかで、富士山の清掃活動を実施。165名の参加者が力を合わせ、15,000L以上のごみを回収できました。2日目は、5合目から奥庭山荘までをエコトレッキング。富士山の歴史と生き物について、五感で学ぶ貴重な時間となりました。

詳しくはこちら！

Report
富士山
2019.7.14（日）～7.15（月・祝）